

国道158号 頌徳の碑（松本市 安曇）

一つめは国道158号（松本市安曇）新湫橋のそばの「頌徳」の碑（しょうとくのひ、意味：徳をたたえる碑）を紹介します。



頌徳の碑と新湫橋(国道158号)



頌徳の碑

頑張っている限り頌徳碑の一部「碑を建つるの記」を読み取ってみました。結構きついです・・・。

「碑を建つるの記」

梓川を挟んで筑摩、安曇両郡の増水時の交通が、上流の雑炊橋一つに頼った年代は永かった。そしてその奥入りの迂回とかぎかけ山の嶮岨を避けてこの處に架橋の企てられた歴史もまた久しかった。

□勝手橋として藩庁に顧られないために遂に本橋に至らず、ただ島々、大野田両村によって渴水期、川幅を狭めて冬橋が架けられてきた。そしてその間は飛騨街道の往来もこの仮橋を越えたが、春の豊水期からはまた対岸の飛騨道にうつり、これを夏道と称んできた。天正九年十一月此處に武田と木曾方の合戦があつたが、その軍記に、大野田夏道の語が見え、その時代一で□冬橋、夏道の関係が始まっていたことが知れる。これが毎年くりかえされ明治初年まで続けられてきたのである。思えば遠い祖先から世々の人々の自然



碑を建つるの記

力に挑む執念のたたかいであった。

しかし遂に明治二年、時の先覚有志の人たちによって、この永い間望んで果し得なかった本橋への宿願が達成されたのである。時は明治維新の動乱期、恃むは多数の協力のみと知った両岸有志の人々は、或は家産を傾け、或は同志を求めて奔走し、ようやく寄付金のみにて最初の本橋を完成し、続いて橋永続講を發起して明治十三年長野県による架橋まで維持したのである。初めの名は竜淵橋、ついで今の新淵橋に改められた。爾来約百年、時遷ってはすでに知る人も少なく、先人の功業も空しく消え去ろうとしている。

道は文化の、経済の動脈である現代の人々は郷土の今日を築く端緒を拓いたこの先覚者たちに対して忘恩に徒であってはならない。

今思いをこゝに致す同志の者相寄ってこの碑を建て、先覚の功業を讃えてその名を掲ぐ。(□は解読できませんでした)

昭和三十九年十一月 竜淵橋架橋功労者顕彰会建之

横山篤美撰文 上條加壽馬書

特に最後の「道は文化の～忘恩に徒であってはならない。」

昭和30年代の人たちの言葉が響きました。道は歴史そのものです。

なお、今の新淵橋（橋の長さ78m、橋の幅12m）は、平成9年2月に完成しています。この橋も平成29年で20歳です。



頌徳の碑



現在の新淵橋(国道158号)

